松江商工会議所

地域経済季報

令和6年1～3月期

総評 今期は、暖冬により様々な業種に影響が出ている。観光関連業では、前半は年末からの人の動きが一段落した場面もあったが、後半は送別会需要が回復して集客が増えた。旅館・ホテルでは、当初懸念されたほどの冬季の落ち込みは少なく、おおむねコロナ禍前の稼働率となった。小売業においては、鍋用食材、エアコン、冬着などの冬物商材の売れ行きが悪く、厳しい状況が続いた。建設業では、公共工事・住宅工事ともに横ばいの動きとなっており、能登半島地震の影響により電線ケーブルが不足する事態があった。製造業においては、原材料仕入にかかる物価の高騰は高止まりしており、物流費、人件費も含めコストアップにより利益が減少しているところが多い。
来期は、新年度を迎えることによる経済の活発化を期待する声が多く、歓送迎会による飲食店の利用増や大型連休による団体での観光が動き出すことが見込まれる。また、部活動や課外授業の再開も好材料になっている。しかし、原材料・エネルギー価格の高騰、人手不足による影響は今後も続くことが予想され、さらに、「2024年問題」が始まることによる物流の低下なども懸念される。

		前期状況(10~12月期)	今期状況(1~3月期)	来期見通し(4~6月期)	調査事業所のコメント
建設業		→	→	→	今期は、公共工事・住宅建設ともに横ばいの動きとなった。また、間近に迫った時間外労働の上限規制適用を含め対応が急務であり、建設資材価格高騰についても依然として収益を圧迫している。加えて、都市部における大型の建設案件や能登半島地震等の影響により電線ケーブルが不足するなどの事態が生じている。 来期は、公共工事については年度始めの閑散期を迎えることに加え、4月に迫る時間外労働の上限規制適用開始なども相まって、先行きを厳しいと判断する声も一部から聞こえるなど不透明感は拭えない。
製造業		→	→	→	今期も、原材料仕入にかかる物価の高騰は高止まり単価だけでなく物流費、人件費も含めコストアップが重なるものの全てを価格転嫁することはできず、収益の悪化に苦慮している。物流においては「2024年問題」が、原材料の輸送や完成品の納品に影響を与える見通し。 来期は、世界情勢の悪化や円安の影響もあり、大手メーカーにおいては、生産拠点の移転や、サプライチェーンの見直しの動きなどがあり、今後の動きを注視する必要がある。
卸売業		→	→	→	今期は、売上が伸びない中、商品仕入れ単価が上昇したため、経常利益がやや悪化した。原因は、需要の停滞や仕入単価の上昇に加えて、金利負担増加、従業員の確保難という声も聞こえる。 来期は、自動車運転業にも時間外労働の上限規制が導入されるため、物流分野で輸送能力の低下が懸念される。宅配の遅れが発生しないように地域をあげた輸送効率の向上が望まれる。
小売業	衣料品	→	↘	→	今期は、地元百貨店閉店セールの開催による需要の先食いの影響を受けて来店客も減少したため、コートやジャンパー、セーター類などの冬物が振るわなかった。また、春物も天候不順の影響から、出足が鈍く、前年同期比売上横ばいであったが、利益は減少した。 来期は、閉店した地元百貨店の顧客の需要を取り込むような販促活動に注力するとともに、フォーマルスーツ等においてメーカーの生産と地元消費者の希望と仕入れに生じているギャップを如何に埋められるかに売上増がかかっているものと思われる。
小売業	家電	→	→	→	今期は、前期に続いて暖冬の影響を受けたことから、エアコン需要は低調であった。また、物価高もあり家電商品への消費マインドは低迷したままとなっている。 来期は、新年度シーズンに入り、固定客への個別営業や展示会を実施することによって買替需要、新商品需要、夏季オリンピック需要など掘り起こしに努めたい。
小売業	自動車	↘	↘	→	今期は、納期遅延の傾向や大手メーカーの特定車種の出荷停止の影響が考えられ、新車登録台数は前年同期比若干減少。 来期は、すでに出荷停止指示が解除されている車種も多くあること、納期においても一部で短縮傾向もみられはじめているため決算期に向けた販売回復に期待。
小売業	総合量販店	→	↗	→	今期前半は、県内唯一の老舗百貨店が閉店となったことから、閉店前の駆け込み需要もあり、売上は前年同期比で増加した。後半については、同店閉店による購入先の分散化が見られた。 来期については新社会人、新入学による需要を期待。
小売業	スーパー	↗	↗	↗	今期は暖冬の影響で鍋需要など冬物商材の動きが悪いものの、節約志向による内食傾向も追い風となり、販売実績は堅調に推移した。特に野菜の価格が上がってきているため、客単価も上昇傾向。全体的には販売価格上昇が少し落ち着いてきたため、買い控え的な動きも収まってきている。 来期は、単価の上昇基調がピークを越えたと見られる中で、どのように現在の高水準の単価を維持していくかが課題。
小売業	特産品	↗	↗	→	今期は、行動制限もない正月を迎えられたことから、学生・社会人等、多くの帰省客もあり、観光客も多かったことから、土産品、特産品の売上は前年同期に比べ増加した。 来期は、新入学や新社会人など異動に伴う人の流れが増加するので、土産品を中心に特産品の売上に期待。
サービス業	飲食	↗	→	→	今期前半は、年末からの人の動きが一段落してしまった感も見受けられたが、後半は送別会需要などが回復する動きが見られた。人手不足やタクシー不足などが、ランチ営業や深夜営業に支障を生じさせる影響が引き続き表れている。 来期は、歓迎会や観光等の需要が堅調に伸びていくことに期待する一方で、物価高騰による節約マインド志向の高まりや新たなバイトスタッフ等の獲得困難化などの懸念材料も抱えている。
サービス業	旅館・ホテル	↗	→	↗	今期は当初懸念されたほどの冬季(閑散期)落ち込みは少なく、直前になっての申込みが多くあったため、おおむね例年(2019年以前)並みとなった。雪の影響での取消などが相次いだが早くからの計画運休などもあり、直前ではなく早期に見合わせるケースも多く見られた。 来期は、4月以降の見込みが好調。特に週末の客足、団体バスの宿泊も復活の兆しがある。今まで控えていた学生の部活動関連や課外授業の再開も好材料となっている。
サービス業	運輸・旅客	↗	→	↗	今期は、全般的に積荷の出荷量が増える兆しがみえず、3月期の引越についても分散化の傾向か前年より落ち込んでいる。旅客需要は増加しており、乗務員が確保できるかで業況に差異が生じている。 来期は、「2024年問題」がスタートとなるが、出荷増は見込めない状況であり短期的な影響はないと予測。人の動きが活発化することにより、タクシーや貸切バスを取り巻く環境が向上することに加え、タクシーの運賃改定が3月29日に実施されたことによる増収を期待。

※売上の前年同期比について↗→↘により表しています。